

## 令和 2 年度漂着ごみ組成調査結果について

### 1 概要

海岸漂着ごみの組成及び量並びにこれらの経年変化を把握し、漂着ごみの実態把握及び今後の漂着ごみ発生抑制対策を効果的に実施するため、2020 年度に県内 3 地点において漂着ごみ組成調査を実施した。

調査地点は、閉鎖性水域である「伊勢湾」及び「三河湾」、並びに外洋に面した「遠州灘」から選定した。

また、調査方法は、環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室から示された「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン（2020 年 6 月第 2 版）」（以下「ガイドライン」という。）に準じて実施した。

なお、本調査は「海岸漂着物処理推進法（美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律）」第 22 条で規定する「地方公共団体による海岸漂着物等の発生の状況及び原因に関する調査」に位置づけ、今後、定期的実施し、経年変化の把握を進める予定である。

### 2 調査地点

- (1) 伊勢湾  
小鈴谷海岸（常滑市小鈴谷）
- (2) 三河湾  
春日浦海岸（蒲郡市形原町）
- (3) 遠州灘  
西七根海岸（豊橋市西七根町）

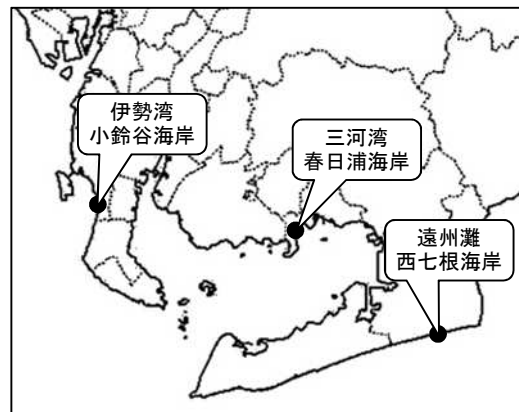


図 1 調査地点

### 3 調査方法

#### (1) 調査範囲

汀線方向の幅を 50m として、調査時の海岸汀線から海岸の后背地（植生があるところ）までの間を対象とする。

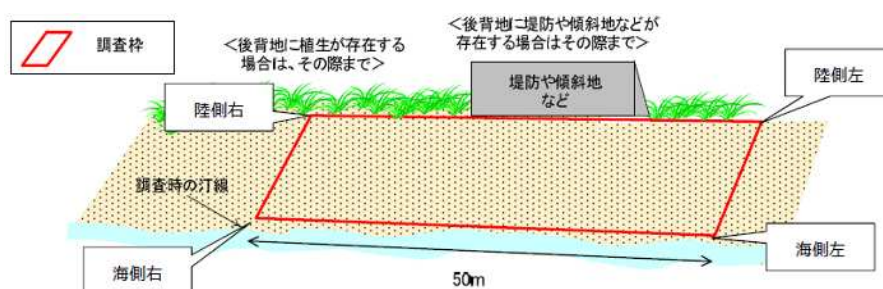


図 2 漂着ごみの調査範囲

(2) 調査対象ごみ

長さ 2.5cm 以上のごみを調査対象として、回収する。

(3) 分類・計測

回収したサンプルをガイドラインの「漂着ごみの分類表」により分類した。また、ペットボトル、そのキャップ及び漁業用の浮子の表記言語などから、製造国の分類も併せて実施した。

分類した漂着ごみは、項目ごとに個数、重量、容量を計測した。なお、元の製品が推定できない場合は破片に分類し、個数として計測しない。



図3 漂着ごみの分類状況

4 調査結果

(1) 小鈴谷海岸（伊勢湾／常滑市小鈴谷）

① 漂着ごみの組成など

調査は図4で示す場所で2020年12月14日に実施した。

調査前の海岸の状況は、図5のとおりであった。

調査で回収した全漂着ごみは、重量が約2トン、容量は約7m<sup>3</sup>、個数は901個であった。

自然物と人工物の組成について、重量及び容量は自然物が9割以上を占めてい



図4 小鈴谷海岸調査地点  
(出典：国土地理院)

たが、個数では人工物が7割以上を占めた。

人工物の組成（図6）について、重量は木・木材系が約54%と最も大きかったが、容量及び個数ではプラスチックがそれぞれ約72%及び約85%と最も多かった。

プラスチックの組成（図7）では、容器包装が重量、容量及び個数とも約6～7割を占め最も多かった。



図5 調査前の小鈴谷海岸

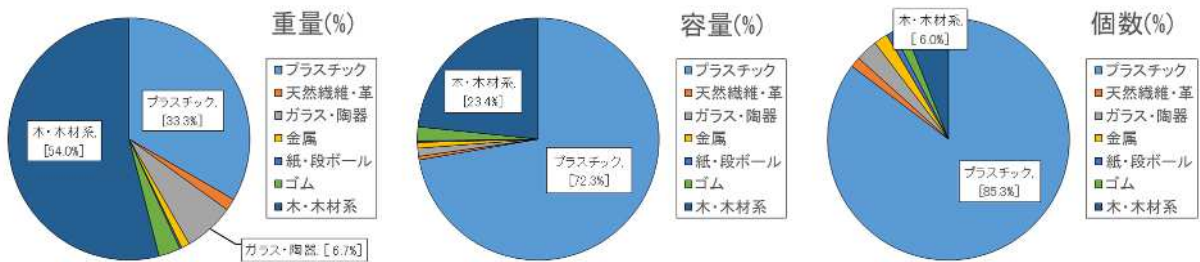


図6 人工物の組成

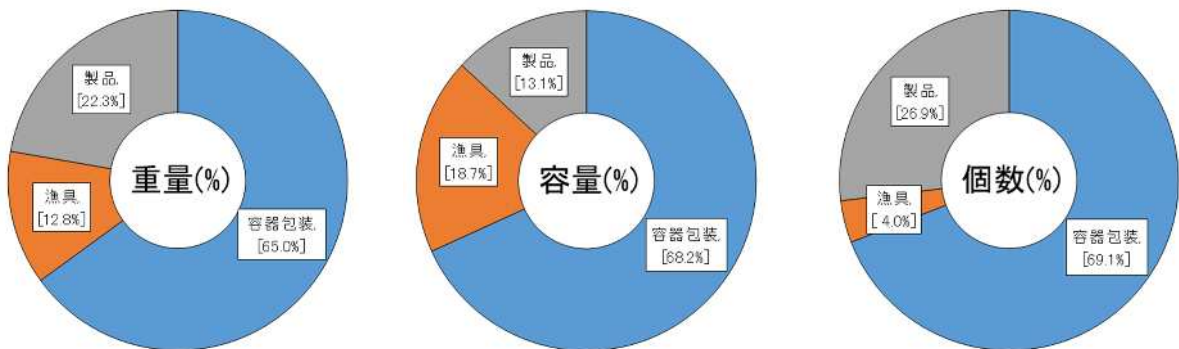


図7 プラスチックの組成

② 漂着ごみの製造国の分類

漂着ごみの内、ペットボトル等の製造国は、国内製が112個と多くみられ、外国製は7個であった。

製造国が特定できたペットボトル等の内、9割以上が国内で製造されたものであった（図8）。

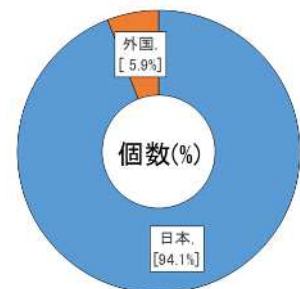


図8 漂着ごみの製造国

(2) 春日浦海岸（三河湾／蒲郡市形原町）

① 漂着ごみの組成など

調査は図9で示す場所で2021年1月19日に実施した。

調査前の海岸の状況は、図10のとおりであった。

調査で回収した全漂着ごみは、重量が約9kg、容量は約0.1m<sup>3</sup>、個数は19個であった。

自然物と人工物の組成について、重量及び容量は自然物が100%近くを占めたが、個数では人工物が9割近くを占めた。

人工物の組成（図11）は、重量、容量及び個数ともプラスチックが9割以上を占めた。

プラスチックの組成（図12）では、容器包装が重量で約8割、容量で約6割を占めたが、個数は容器包装及び漁具を除いた製品が8割以上を占めた。



図9 春日浦海岸調査地点  
(出典：国土地理院)



図10 調査前の春日浦海岸

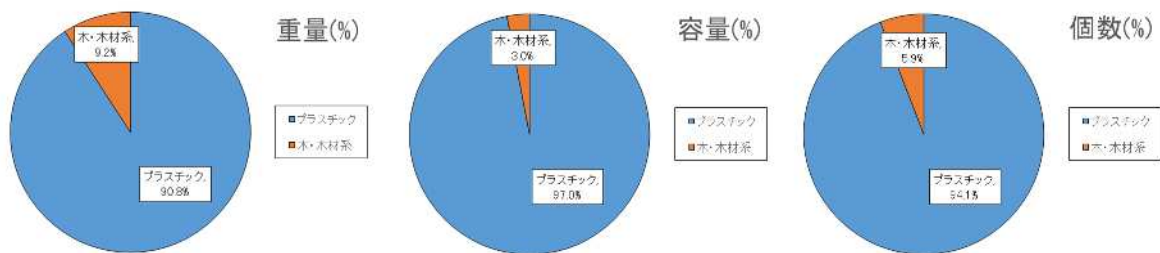


図11 人工物の組成

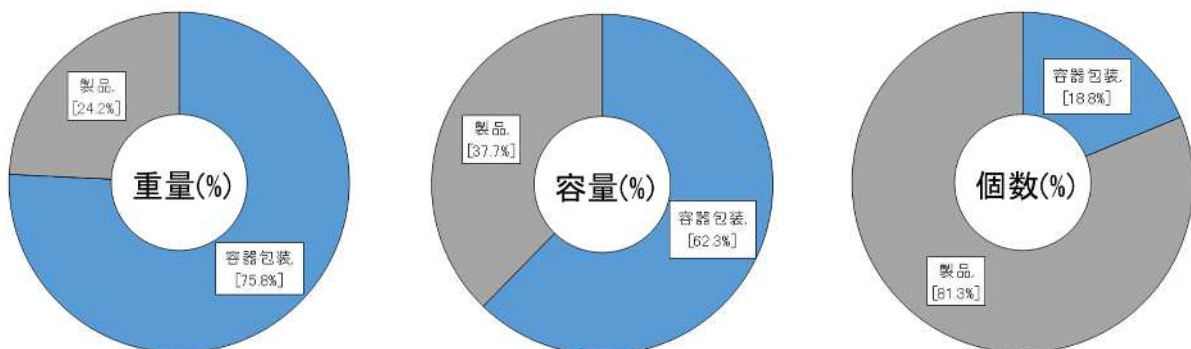


図12 プラスチックの組成

② 漂着ごみの製造国の分類

漂着ごみの内、ペットボトル等の製造国は、国内製が1個で、外国製のものはなかった。(図13)

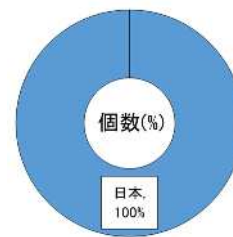


図13 漂着ごみの製造国

(3) 西七根海岸 (遠州灘/豊橋市西七根町)

① 漂着ごみの組成など

調査は図14で示す場所で2021年1月20日に実施した。

調査前の海岸の状況は、図15のとおりであった。

調査で回収した全漂着ごみは、重量が約20kg、容量は約0.2m<sup>3</sup>、個数は177個であった。

自然物と人工物の組成について、自然物の重量が8割以上、同容量が7割以上を占めていたが、個数では人工物が9割以上を占めた。

人工物の組成(図16)は、プラスチックが重量の5割以上を占め、同容量は約8割、同個数は9割以上と最も多かった。

プラスチックの組成(図17)について、容器包装、漁具及びその他プラスチックとも重量及び容量は3~4割程度と同程度であったが、個数は容器包装が6割近くを占め最も多かった



図14 西七根海岸調査地点  
(出典: 国土地理院)



図15 調査前の西七根海岸

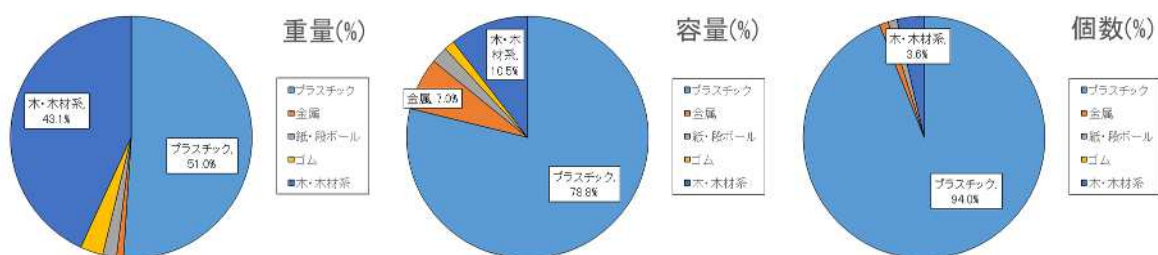


図16 人工物の組成

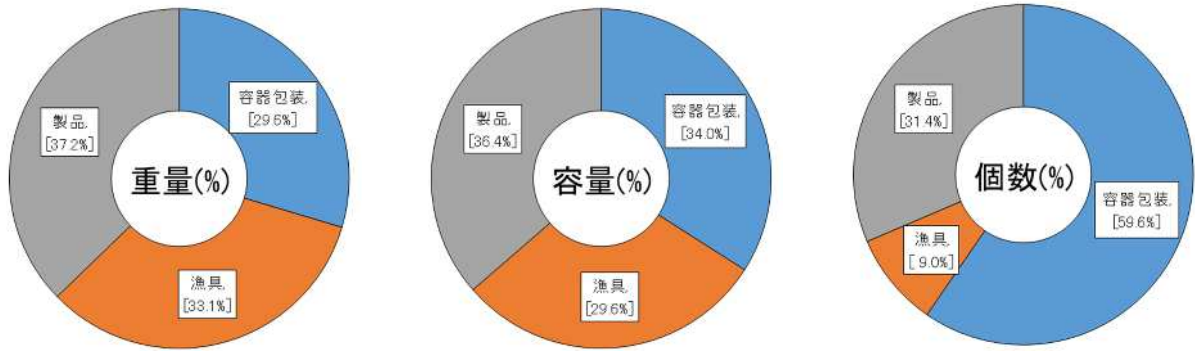


図 17 プラスチックの組成

② 漂着ごみの製造国の分類

漂着ごみの内、ペットボトル等の製造国は、国内製が4個で、外国製は7個であった。

製造国が特定できたペットボトル等の内、6割以上が外国で製造されたものであった（図 18）。

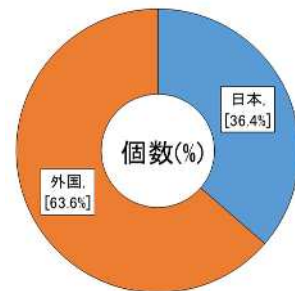


図 18 漂着ごみの製造国

5 まとめ

- 伊勢湾、三河湾、遠州灘とも、流木など大型の漂着物になりやすい自然物が重量及び容量の多くを占めるが、個数については人工物が多くを占めていた。
- 人工物に占める容量及び個数について、3海域ともプラスチックの割合が最も多かった。
- 伊勢湾については、プラスチックの内、容器包装が重量、容量及び個数とも最も多くを占めていた。
- ペットボトル等の製造国では、伊勢湾及び三河湾では国内製のものが多く、遠州灘は外国製のものが多かった。